

# 附属改革に関するアンケート調査結果（教員 OB）

香川大学教育学部附属坂出学園

## <概要>

平成30年8月25日（土）の松風会総会の折、附属坂出学園教員 OB に依頼した附属改革に関するアンケート結果を示す。12月9日現在、30名の先輩から回答が得られた。

問うた質問は、①附属に入る前と附属を出た後を比べて、教育に関する考え方が変わったことがありますか。②附属で勤務したことが、その後の教員生活に役に立ちましたか。③附属の存続に関する意見や「子供のいる実践的な教員研修の場」などの有識者会議の報告書に応じた改革についてアイデアを教えてください。であった。

問い①②より、100%の回答が附属勤務で教育に関する考え方が変わり、その後の教員生活に役立ったことが示されており、附属坂出学園が「やりがいと誇りをもって勤務でき地域のリーダー教員を育てる学校」であることのエビデンスが得られた。

記述内容を分類整理してみると、問い①の考え方の変容では、「授業研究、子供理解に関して」「連携の重要性に関して」「教育理念、教育観に関して」「時代と教育研究に関して」「地域のニーズに関して」「教員養成に関して」等であった。問い②の附属勤務がその後役立ったことでは、「人とのつながり」「附属で学んだ授業研究、子供理解、指導技術」「後輩や教員への指導」「香川県の授業指針策定に」「教育者としてのたくましい精神」等であった。

問い③の改革に関するアイデアでは、「附属坂出学園の特色」「教員研修」「地域のニーズ」「県・市町・大学・保護者とのコラボ」「未来を見据えて」「エビデンス」「教員養成・坂高教育コース連携」「働き方改革」「人事」の観点から貴重なご意見をいただいた。いただいた9つの観点は、有識者会議の報告書に応じた改革を進める上で欠かせることのできない観点であり、今後の改革に役立てたい。

何よりも、附属坂出学園の現職教員が先輩方が附属で学んだこと、その後の教員人生で役立ったことを知ることにより、一層、附属勤務に誇りとやりがいをもち、未来を見据えて、今を大切に生きることができると考える。そして、皆でアイデアを出し合い、松風会や関係機関と協議しながら有識者会議の報告書に応じた附属改革を推し進めていく決意である。

## <調査結果>

1 附属に入る前と附属を出た後を比べて、教育に関する考え方が変わったことがありますか。24人より回答

(25) はい (5) どちらかといえばはい (0) どちらかといえばいいえ (0) いいえ

### 【授業研究、子供理解に関して】

- ・ 授業研究は常に子供主体で考えること。いい授業は子供が輝くこと。(5)
- ・ 興味を呼び起こす教材開発をすることが教師の大きな役目と考えるようになった。(4)
- ・ 子供理解の重要性（子供の姿をよく見ること、子供の声をよく聞くこと。子供の発言の背景を探り、その発言の意味を深く考えること）
- ・ 子供たちが困ったり迷ったりする中で、解決に向かう過程に「楽しさ」があること。
- ・ 子供が「わかる」「理解する」「できる」という状況がほんとうにどのようなものか
- ・ 子供のせいにする前にできることがたくさんあること。
- ・ 研究討議に対する考え方（必ず代案、子供の姿で）

- ・教科指導の重要性（公立中での教科指導充実のために）
- ・公立幼稚園では、様々な子供がいるので、子供たちが消化不良にならないような言葉かけや共に活動することが大切であるということ。
- ・特支の子供たちへの接し方

#### 【連携の重要性に関して】

- ・幼小中一貫教育の重要性。特別支援教育は幼小中の一貫として運営される必要性
- ・学校教育を広い視野から捉えることの必要性（幼小中連携，それを支える特別支援教育の重要性など）
- ・関係機関との連携の必要性（大学，文科省，県教委，各市町教委，小研，中研等）
- ・地域のネットワークを束ねる附属の大切さ（小研，中研）
- ・特別支援教育は医療，福祉，労働との連携が欠かせないということ。
- ・手段はいろいろあること（幼小中それぞれを理解することの大切さ）

#### 【教育理念，教育観に関して】

- ・常に高い教育理念をもって指導に当たることの重要性（妥協しない，向上心）（5）
- ・教科指導と人間教育の関係を考えるようになった。
- ・「教科書の内容を教える教育観」から「学習指導要領に沿って教科書を教材として考えさせる」教育観に変わった。
- ・基礎基本の習熟が大切と考えていたが，偏ることなく課題解決的学習をバランスよく配置したカリキュラムが必要と考えるようになった。

#### 【時代と教育研究に関して】

- ・常に時代の先を見通した研究教育実践を行うことが次世代を担う子供たちへの教育に重要であること。（4）
- ・国の教育施策の流れや教育史など，教育の全体像を捉えられるようになった。そのことから，子供たちにどんな力をつけるのか考えるようになった。（3）
- ・今求められている教育方法についての実践研究の重要性
- ・最先端の教育により研究の意義ややり方が分かった。
- ・論を進める上でエビデンスをきちんと確認すること（原本にあたるようになった）

#### 【地域のニーズに関して】

- ・地域に役立つ研究の重要性

#### 【教員養成に関して】

- ・教員養成の重要性（2）

2 附属で勤務したことが，その後の教員生活に役に立ちましたか

（30人より回答）

(29) はい (1) どちらかといえばはい (0) どちらかといえばいいえ (0) いいえ

#### 【人とのつながりのありがたさ】

- ・附属時代につながったたくさんの人脈がその後の活動で多いに役立った。（17）
- ・附属を出た後，様々なところで要職を経験させていただいた。

#### 【附属で学んだ授業研究，子供理解，指導技術を使って】

- ・附属時代の研究の進め方や内容，指導技術が公立校でも活かされた（13）
- ・自分の専門以外のすべての教科も勉強できたので，その後の公立校の研究主任，管理職として役立った。（7）
- ・研究会のノウハウを活かした。校内研修を推進する上でも，運営方法，ネットワークづ

- ・くり，教材研究の方法等役だった。（３）
- ・レポートや論文への取組に役立った。（２）
- ・ノウハウ本ではなく学術的本を読むようになった。

#### 【後輩や教員への指導に】

- ・附属で学んだ事を後輩教員を育てる中で活かしていく意識が持てた（５）。
- ・教材研究，授業研究の在り方，子供の見取り方伸ばし方が変わり，指導主事や管理職としても役立った。（５）
- ・今，指導主事として話していることはすべて附属で学んだ事ばかりです。他教科の指導もできたのは附属のおかげです。（４）
- ・自分の専門教科について他校の先生にも尽力していけるようになった。
- ・先輩が引きついできた教育の普遍的なものを引き継いでいくことの大切さを実感できるようになった。
- ・附属時代に培った授業分析力により，その後授業を見て的確に指摘ができた。

#### 【香川県の授業指針策定に】

- ・「さぬきの授業，基礎基本」の改訂作業に活かすことができた。

#### 【教育者としてのたくましい精神が】

- ・附属出ということで注目度が高く，「内なるプライド」をもち，常にモチベーションを高く保ち，自己研鑽に励めた。（４）
- ・新しい授業や教育を改革するために何が大切なのか常に意識するようになった。（３）
- ・少々のことではへこたれない強い精神力を身に付けることができた。
- ・いろいろな分野領域に積極的に取り組める態度意欲となった。
- ・中学校と特別支援学校を経験できたことは，その後の教員人生の中で大きな財産になった。
- ・人（子供，保護者，同僚）に対し真摯な態度で接するようになった。

3 附属の存続に関する意見や「子供のいる実践的な教員研修の場」などの有識者会議の報告書に応じた改革についてアイデアを教えてください。

#### 【附属坂出学園の特色に関して】

- ・附属の特色ある教育活動もアピール
- ・附属坂出学園の強みを生かした研究をする（小中の接続，連絡進学小学校のデータを中に生かす。そして公立へ）幼小中の一貫教育を
- ・他附属にないものをアピール（すばるの地域貢献，大学と連携した放課後の生活研究，発達障害のある子供の保育，認定こども園への指導例）
- ・前回危機の時に取り組んだ，一貫教育・特別支援教育の研究を紐解き，ブラッシュアップを
- ・文科の教育への動きを的確にとらえ直接的なかかわりを深め研究成果を深化発展させる。

#### 【教員研修に関して】

- ・教科の勉強会（香小中研，同好会）の活性化，教科研究のリーダー養成，教員の授業アドバイス（７）
- ・若返った附属の教員が若手モデルとなり，ともに研修できる場を設ける。研究会だけでは一方通行で距離を感じる。
- ・西部管内の教員研修の中核地として，ネットをつないだテレビ電話システムを構築し，

リアルタイムによる双方向での授業研究を実施する。

- ・研究会で新採，中堅，管理職グループし応じた協議会を企画する
- ・日常の研修機会の提供，研修生の受け入れを兼ね備えたシステムの構築
- ・HP で実践動画の配信や授業研究だよりの発刊などオンライン研修の視点を取り入れる。

#### 【地域のニーズに関して】

- ・公立の先生に参考になる授業の公開，教科指導の拠点に，あこがれの授業を公開，子供を育てている過程を公開（7）
- ・特別支援学校では画期的な事例研究を取り入れて地域のリーダーとして推進してほしい（実践的なアイデアの提供）

#### 【県，市町，大学，保護者とのコラボに関して】

- ・「子供のいる実践的な教育研修の場」どこまで県教委の理解が得られるかが大切
- ・県教委，大学，地域とのかかわりの中で，研究，教員養成，教員研修を充実させる。（実践交流校を4から5校設置し交流を図る。教科で共同研究者を指名する。）
- ・県教委の長期社会体験研修に附属学校での教育研究を体験するプログラムを組み込み学習指導力をもったリーダーを育てる。
- ・松韻会（PTA）にも情報を提供しアイデアを求めてみては

#### 【未来を見据えて】

- ・学校経営の未来志向の先導的研修・経営の在り方が提案できる学園であること
- ・松尾豊研究室と連携して，小学校におけるプログラミング教育の先進的な取組を行う。
- ・「希少的取組」の分野の研究も必要な時代かも

#### 【エビデンスに関して】

- ・附属の発信した研究内容を明示した上で，現教主任に影響を与えてきたかを問うアンケート
- ・業務改善が分かりやすくなるような過去との比較データ
- ・附属の存在意義を問う校長や一般市民へのアンケート
- ・公立の先生から附属の研究が役に立っているというアンケート
- ・「さぬきの授業基礎基本」と「新しく教員になったみなさんへ」は附属の研究成果のエビデンスになり得る。

#### 【教員養成，坂高教員養成コースとの連携に関して】

- ・大学2年時の実習検討，実習後のインターンシップ検討
- ・坂高教育コースとの連携をいかに深め，広げていくか。

#### 【働き方改革に関して】

- ・働き方改革は組織として応えられるものになっているか
- ・ICTを活用して，家でもデータ共有を，5時に帰り育児終了後家で仕事。

#### 【人事に関して】

- ・校長の常勤化，教授の兼務はそろそろ限界になっていないか。退職校長から募集し，大学の附属担当を充実させ六附属を総括。
- ・幼稚園人事，小学校教諭からだけでは苦しい。幼稚園教諭の採用も
- ・附属人事の方向性について県教委との詰めが必要

#### 【その他】

- ・大学は附属のことを今後どのように考えているかのビジョンが見えない
- ・オール附属でピンチを乗り越える知恵を出す場を
- ・他県の附属と連絡を密にする